

特集：「南三陸コミュニティーガーデン造りについて」No. 2



完成したガーデン



果樹園側からのガーデンをみる



芝生エリアでミニゴルフをして遊ぶ子ども達

ニュースレター、メーリングリストでご紹介してきた宮城県南三陸の志津川町でのガーデン造り。様々な形で多くの方にご協力、ご支援、ご尽力いただきました。

9月29日～30日の庭造りで、ミッション完了。予定の作業を終了しました。素敵な庭ができました。みなさまありがとうございます。しかし!!!

10月8日のステップアップ講座参加者へはご報告をしましたが、本当に残念なことに、ガーデンの移転を余儀なくされることになりました。町の今年度予算が、高台への移転整備に使う計画から、2～3年先だろうと言われていた建物の基礎の撤去と浄化水槽の撤去へと急遽変更になったそうです。

庭完成と同時に向き合うことになったこの事実には愕然としながら、事実確認と撤去の期日、移転先の可能性について現地の受け入れ団体 sola の平田さんとやりとりをしてきました。10月26日、日帰りで深町さんと南三陸に行き、現地の方々とお話ししましたが、本当に多くの方が親身になって、移転先を検討・奔走して下さいました。sola 平田さんへの地元の方の信頼の厚さも実感しました。毎回徹夜で作業に来た隊員のみなさまの雄姿、出来上がった庭で遊ぶ子供たちの様子が地元の方々には伝わっていました。地元の方々が復興のために、町のためにと一生懸命であたたかくて。私たちは、それに応えてこれからも植物や庭を通して南三陸の方々と一緒に歩んでいきたいと思いました。

結果。11月23～25日の連休に南三陸に移転作業に行きます。ガーデン隣接のクリスチャンセンターの土地は地主さんが売らないことに決め、活動方針を見直し地域のコミュニティーセンターとしての位置づけを強化することになりました。そのために、庭の一部をセンター横に残してほしいとセンター地主の S さんからの強いご要望をいただきました。砂場とレイズドベッドはクリスチャンセンター（愛信望館）前に移転します。

そして地区センターのある高台に sola の児童館建設が予定されていましたが、現地の処々の事情で中止になりました。しかし sola が週1回20～30人の子供たちと活動し、定期的にお年寄りが集まってお茶のみの会をされているということで、そちらにもガーデンの一部を移転することになりました。そして、区長さんが、志津川高校下の空き地部分の土地も地主さんが売らないと確認をとってくださり、残った資材などはそこに置かせていただけることになりました。sola の児童館の場所が確定したらまたそちらにガーデンができるようお手伝いする予定です。来春からの動きは11月に現地でもたご相談をして決めていきます。

今後とも引き続きご支援、ご協力をお願いします。尚、今年度の南三陸のガーデン造りに関する会計は、今回の作業も含めて次号にご報告します。

「ガーデン造りに参加いただいた皆さんの感想」

スタディコース5期生 福村安男

「コスモスの思い」

・畑耕し隊に参加したときは、こんな遠くから支援が続くのだろうかと思いつつ、後先も考えずに合流。今年度は、キッズガーデンが立派に育った。5月のときは、瓦礫の中で無我夢中になって畑づくり、周りの植物たちに挨拶もなしに。ところが、どこからともなく運ばれてきたコスモスの種から、何百本もの芽がでて、押し流された

家屋の土台の枠組みに囲まれて育っているのに仲間が気がついた。津波の前は家屋の下で植物は生える余地も無く、去年は瓦礫の下敷きの場所、その後、どこから運ばれて育っているのだろう。活動の帰り際、その生えている一角に白いテープで囲い、名札を指してきた。おそらくキッズガーデンのお披露目式のころ咲きほこっていたことと思う。白とか赤の色かな。いやもしかしたら、こどものころよく見た薄いピンクの色だったかもしれない。

・支援の参加前は重いボランティアを感じ、参加したときは仲間入りした元気をいただき、参加後は何とか続けていこうとする。今は、コスモスのようにその土地に育つ支援とは何かを考えている。

JHTS 理事/スタディコース 7 期生 山田洋子

この春から始まった宮城県南三陸町のキッズガーデン造りは、子供支援と地域の交流の拠点となる場づくりがコンセプトで、震災直後から子供たちの支援を続けている SoLa という団体に協力する形で今年度全 4 回の予定でした。まず初年度は環境作りの年となりました。

1 回目の『畑耕やし隊』2 回目の『レイズドベッド造り隊』3、4 回目の『デッキ、砂場造り隊』最初の打合せからのべ人数 35 名で作ったガーデンは、畑があって、花壇があって、砂場、果樹コーナー、広いデッキに芝生のスペース、そこだけが違って見える空間です。そう、まだまだ被災地は復興へのジレンマと混乱の中にあり、私たちが作ったガーデンは離れ小島のように。それでも子供たちが遊ぶ姿を思い浮かべながら、地域に住む方々が一時座ってところが安らげる場になればと作った場所です。刻々と変わる現地の状況の中にあっても、その想いは変わりません。そして、回数を重ね、ガーデンが形になることで、生まれた現地との新たな絆もあります。今後も南三陸町に住む方々の気持ちに沿った活動を模索しつつ、継続できることを願います。

実際はとっても楽しい時間でした。一人でもできることは小さくとも、チームで力を合わせ作り上げていく楽しさは格別です。被災地支援なのに・・・楽しんでいいのかしら、とチラリと考えるほど。今回、日比谷の準備に参加することで、被災地支援に参加したいと話されていた会員もいました。提供して下さった方も、そして、なかなか動きが取れない方も、被災地に対する想いは同じであることは承知しています。

皆さんを代表して行かせていただいたことを幸運に思います。

JHTS 理事/スタディコース 17 期生 栗井 清

2011 年 11 月、一度見ておきたいとの思いから、仙台空港でレンタカーを借りて、一泊二日で南三陸に行きました。津波に襲われた地域となかった地域とのあまりにも大きな隔たり、落差の大きさに、またすべてを津波に持って行かれた南三陸の町の一望に唖然としました。一体何ができるのだろうか。ただ現地を観ただけで、帰京しました。今回の JHTS の活動には、当初からぜひ参加したいと思いながら、体力に今一つ自信がなく、涼しくなって、9 月末の、第四回目の今年最終のミッションに参加することができました。

昨年 11 月の時は、がれきの山で、無機質な風景でしたが、今回はいろんな草花が成長し、ところどころにはコスモスが群生し、草原の風景に一変していました。草花は、したたかに、しなやかに再生を始めています。一方、人の暮らしは、昔のそれにはほど遠く、これからどのようにしていくのか、まだ混乱のさなかにあって、再生はまだまだ先のことに感じました。

そんななかに、深町さんのプランニングとみなさんの献身的な働きで、素敵なキッズガーデンが出現しました。このガーデンで、草花にふれ、砂場で遊ぶ子供

達から、地域のみなさんに、笑顔と生きる希望が生まれてくるんだと思います。南三陸活動に参加するのは、まだまだ閾値（いきち）の高いことと思いますが、わたしたちが、被災されそこに住むひとたちのことを忘れることなく、これからずっと、こころを寄り添っていくことがとても大切なことと思います。

スタディコース 18 期生 谷知美和子

あれから 1 年半、目に見える形の復興がまだほとんどない南三陸の現実。鉄骨の骨組みだけが残る防災センターで冥福を祈り、支援現場に行きました。これまでの 3 回の活動で作りに上げていたところに、仕上げのシート張り、デッキの完成、砂場の砂入れ、芝生張り、果樹・花苗や球根の植え込み・・・と最後の形作りでした。

出来上がったコミュニティーガーデンは、とても素敵です。穏やかな空気に包まれ、心地よい空間に、早速遊び始めた子供の声が聞こえ、そこだけが周辺の景色とは違いました。もしかしたら、この素敵な空間がなくなるかもしれない・・・とのことでしたが、1 日でも長く、出来上がったコミュニティーガーデンを中心に、仮設住宅に住んでいる方々など地元の皆さんにとって心地よく楽しい空間になればと願っています。



恵泉女学園大学 (JHTS 法人会員) 園芸準備室職員 来島 泰史 「ミッションは、キッズガーデンづくり」

第 3 回「キッズガーデンの作成」に参加することができた。記事、放映などで見聞きした南三陸町が、今どの様になっているのか、知りたい、行ってみたいという思いで加わらせていただいた。

私以外の方々は、前回も参加していた方ばかりで、周りの復興の進み具合や、ガーデン周囲の瓦礫の事など熟知しており、到着後の行動も俊敏で、その姿に圧倒された。ひとつのミッションに向かって黙々と作業をする精鋭 8 名との出会いは、深く心に残った。

途中、雨の歓迎も受けながら、不慣れた作業でどこまで到達したか疑問であるが、家屋の基礎部分だけが点在する光景の中、キッズガーデンの役割とは、災害で破壊された町の中において、子供達、親にとって必要な憩いの場になると思った。

スタディコース17期生 平澤光世

作業の前に、海に見える被災地に立って感じたのは、夏草が茂っているせいか津波が襲ったのは既に遠い昔の出来事の様だ..そこに街があったとは想像出来ないくらい“何も無い”風景でした。生で感じる静けさや悲しさがひしひと伝わって、1年半が過ぎた現在も復興とは程遠い現実に、言葉が出ませんでした。

5月からスタートした南三陸のプロジェクトの第3回9/1、2はまだ残暑が厳しい中での作業となりました。家のコンクリートの基礎を板材で覆い、ウッドデッキ

と砂場の基礎作り、雑草除去などが主な作業でした。前回までの作業で製作されたレイズドベッドに植物が育ち、トウモロコシなどの野菜も育っていました。

(一足早くカラスが食べてしまっていました！)
10人が週末で出来る作業には限界がありますが、成長した植物や野菜、そこで遊ぶ子供達を見て、小さな一歩の積み重ねが被災地の方々の前へ進む力となってくれればと思います。